

スキン-テアについて

快

摩擦やズレで皮膚が裂けてしまう、高齢者の四肢に起こりやすい損傷。早めに皮膚科や形成外科に受診を

皆さん、スキン-テアという言葉をご存じでしょうか？

スキン-テア(skin tear)とは日本語訳では皮膚裂傷(ひふれっしょう)のことで、摩擦やズレによって皮膚が裂けて生じる、真皮深層(しんぴしんそう)までの損傷のことです。近年医療関係者の間では知られるようになってきましたが、まだ一般の方には馴染みのない言葉だと思います。

それではそんな言葉は知らなくても良いじゃないかと思われると思いますが、これは医療関係者だけが目にするものではなく、高齢の方ご自身や高齢の方と同居されている方、仕事等で高齢の方と接する機会が多い方であれば遭遇する可能性があります。というのは、スキン-テアは高齢者の四肢(特に前腕や下腿)に多く生じるもので、通常ではケガにならないような軽い力でも生じるものだからです。

病院では、「四肢がベッド柵に擦れて皮膚が裂けた」「絆創膏を剥がす時に皮膚が裂けた」「車のフレームに擦れて皮膚が裂けた」「リハビリ訓練や体位変換時に身体を支えていたら皮膚が裂けた」「更衣時に衣服が擦れて皮膚が裂けた」などの原因で生じていますが、原因不明でいつの間にか生じていたということも多いです。

これらは当然日常生活でも生じる可能性があり、実際、「車のドアに軽く足が当たっただけで生じた」「家のドアノブに腕が当たって生じた」「絆創膏を剥がす時に皮がむけた」「よろけた時に助けようとした人に腕をつかまれて生じた」などの原因で受診された患者さんもいます。

お年寄りを手助けするつもりで善意でしたことで、結果的にケガをさせてしまう可能性もあるので、注意が必要です。

松山赤十字病院 形成外科
庄野佳孝 医師

日本形成外科学会専門医
日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医
日本創傷外科学会専門医

老化した皮膚は、表皮の菲薄化(ひはくか/薄くなること)や真皮の萎縮、膠原線維(こうげんせんい)の減少、毛細血管の脆弱化(ぜいじゃくか/弱くなること)、皮下脂肪の減少などが生じるため、皮膚が薄く脆弱になり、ちょっとした外力でスキン-テアを生じます。また、乾燥した皮膚や紫斑がある皮膚、浮腫を生じた皮膚、ステロイドを長期内服されている方に生じることが多いとされています。

予防法としては、保湿剤を塗布する、アームカバーやレッグカバー・手袋などで保護する、ぶつけやすい場所があればカバーや衝撃吸収材で保護することなどが挙げられます。

スキン-テア発生後の病院での基本的な処置は、止血・洗浄する(血腫や異物があれば除去する)、剥がれた皮膚が残っていれば皮膚を元の位置に戻す(巻き込まれている皮膚を伸ばして戻す)、戻した皮膚がずれずに創周囲(傷の周り)に固着しないような創傷被覆材を使用することです。

小さいものであれば軟膏塗布だけでも治るので、ご家庭での処置も可能ですが、脆弱な皮膚にテープ固定をすると、テープを剥がす時にもスキン-テアを生じる可能性があります。早めに皮膚科や形成外科のある医療機関を受診されることをお勧めします。